

2022 年度公益社団法人日本小児科医会事業報告

I . 公益目的事業

1 . 乳幼児学校保健委員会

担当副会長の交代：武知哲久副会長から松下享副会長へ

担当理事の交代：松下享理事から板野正敬理事へ

委員の交代：退任 小池明美委員、新津直樹委員、岩田祥吾委員

新任 岡村暁子委員、田草雄一委員、三平元委員（2022 年 10 月から）

委員会開催：6 月 12 日、9 月 9 日、10 月 23 日、12 月 4 日、2023 年 1 月 9 日、2 月 18 日

（1）調査研究事業

事業名称：「問診から進める個別健診ガイドブック」活用促進のための調査研究

目的：「問診から進める個別健診ガイドブック」質問票を活用した就学以降の小児の個別健診の実施を会員に促すための資料を作成する

内容：「問診から進める個別健診ガイドブック」を活用した健診・保健指導を委員会委員が実施し、実施によって得られる成果、実施に際しての留意事項等を取りまとめる。

実施状況：2021 年 8～12 月に予防接種、感冒、不定愁訴等にて受診した 190 人（小学校低学年；26、小学校高学年；66、中学生；61、高校生；37 名）と保護者 194 人（親子回答は 184 組）でアンケートを実施。その回答内容について分析を行った。第 34 回日本小児科医会総会フォーラムで発表予定

（2）学術集会及び研修会事業

1) 事業名称：第 12 回日本小児科医会乳幼児学校保健研修会

目的：乳幼児保健・学校保健に関する診療技術向上の意義、重要性を啓発する

テーマ：「問診から進める個別健診ガイドブック」～学童期から思春期の悩みに対する初期対応のコツ～

開催形式：現地会場およびライブ配信、見逃し配信あり

対象者：日本小児科医会会員、母子保健にかかわる医師、研修医、医学生等

参加数：現地 25 名、web 参加 190 名

実施時期：2022 年 9 月 18 日（日）

場所：フクラシア品川クリスタル（港南）

財源：参加費（ネット参加、現地参加とも会員 1 万円、非会員 1 万 5 千円）

プログラム

委員会報告：問診から進める個別健診ガイドブックを使ってみて

松下 享 [日本小児科医会副会長]

悩みや不定愁訴を抱えた思春期の子どもへの対応 -解決志向の対話-

黒沢 幸子 [目白大学心理学部心理カウンセリング学科]

自傷、自殺念慮の理解と援助

松本 俊彦 [国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 薬物依存症センター]

関係性からみた家庭内暴力について -理解と治療・対応-

川畑 友二 [クリニック川畑]

性別に違和感をもつ子どもへの対応

康 純[関西大学保健管理センター]

月経異常、性感染症、予期せぬ妊娠などへの対応

安達 知子 [社会福祉法人恩賜財団母子愛育会 総合母子保健センター 愛育病院]

委員会内での使用経験、演者からの提案をガイドブックの改訂、改善に反映させ、また公的な枠組みでの健診につながるよう検討を進めていきたい。ガイドブックを増刷し、新入会の会員には無料で配布し、非会員は購入ができるようになった。

2) 事業名称：乳幼児学校保健委員会企画セミナー

目的：乳幼児期の視機能の発達過程およびその妨げとなる要因を理解し、合わせて早期発見が必要な眼科疾患を学ぶ

内容：講演並びに総合討論

テーマ：子どもの視機能の発達と早期発見が必要な眼科疾患

①小児の視機能の発達と健診 国立成育医療研究センター眼科 林思音

②早期に発見したい眼疾患とその治療 国立成育医療研究センター眼科 仁科幸子

③デジタルデバイスが小児の眼に与える影響 浜松医科大学眼科 佐藤美保

方法：総会フォーラムで開催するセミナー

対象：総会フォーラム参加者

実施時期：令和4年6月12日（日）

実施場所：レグザムホール（香川県県民ホール）

財源：予算申請あり

（3）普及啓発及び支援事業

事業名称:成育期を通じた健康診査システムのあるべき姿を提案するワーキンググループ活動(乳幼児学校保健委員会・地域総合小児医療検討委員会合同)

目的：

かかりつけ医による、成育期を通じた個別的・継続的なバイオサイコソーシャル的な観点に基づいた健康診査システムの構築

かかりつけ医による子育ての見守りを地域の保健サービスに位置付けることができるよう、行政との情報共有を深める。行政と連携した地域の子育ての見守りの1つのツールとなることで、乳幼児健診回数の増加を制度として実現する。

内容：

初めての小児科受診（多くは生後2か月の予防接種時）に育児の状況を尋ね以後の支援の参考にできるよう当ワーキンググループで作成した問診票を活用することで、かかりつけ医療機関の、生後早期からの育児支援マインドを高めることを目標とする。

実施状況：

生後2か月の問診票を一般ホームページに掲載し会員・非会員に利用可能とした。11月27日に開催された第9回 地域総合小児医療認定医指導者研修会において、「2か月健診時に用いる母親アンケート」の演題で三平委員が、1月29日開催の第1回 地域総合小児医療ブラッシュアップセミナー（後期）において、「かかりつけ医療機関で行う、生後2か月からの予防接種の機会を活用した子育て支援」の演題で稲光委員が、2か月の問診票の活用啓発および行政との連携の重要性についての講演を行った。

WGメンバー：稲光毅、藤田位、秋山千枝子、松下享、伊藤晴通、伊藤隆一、林泉彦、三平元、

外部アドバイザー：阪下和美（成育医療研究センター）、永光信一郎（久留米大学）

なお、乳幼児健診WGは12月までで役割を終え、当委員会にWG主要メンバーの三平元委員を迎えることで、その活動を当委員会で引き継ぐこととなった。

財源：予算申請あり（成育期個別健診推進準備資金の活用）

2. 学術教育委員会

(1) 調査研究事業

1) 地域総合小児医療検討委員会への参画

地域総合小児医療検討委員会へのオブザーバー出席の機会がなかった。

(2) 学術集会及び研修会事業

1) 第33回日本小児科医会総会フォーラム

目的：小児医療の発展と社会の要請に応える日本小児科医会の各種事業の内容、成果、方向性を周知するとともに、医学・医療の最新知識ならびに技術を習得する場を企画し、小児の保健、医療、福祉の総合的な向上をはかる。

内容：テーマ「今、君が子どもたちに出来ること：四国うどん県からの発信」

方法：特別講演、教育講演、シンポジウム、セミナー（現地開催及びオンデマンド配信）

開催日：2021年6月11日、12日（オンデマンド配信；2022年7月1日～9月30日）

開催場所：香川県県民ホール（レクザムホール、香川県高松市）

参加人数：1,031名（事前登録796、当日登録99、オンデマンド登録103、招待者33）

委託先：香川県小児科医会

2) 第18回日本小児科医会生涯研修セミナー

目的：小児科領域の総合診療能力の向上と、小児保健・福祉に寄与できる能力の習得を目的に、地域小児医療に従事する小児科医に研鑽の場を提供する。

内容：テーマ「日本のひなた宮崎からの発信 ～コロナ禍の学び～」

方法：小児医療等に関する講演と質疑応答（現地開催及びオンデマンド配信）

開催日：2022年10月9日（オンデマンド配信：2022年10月17日～31日）

開催場所：宮崎観光ホテル（宮崎県宮崎市）

参加人数：236名（会場参加143名）

委託先：宮崎県小児科医会

(3) 普及啓発及び支援事業

1) 日本小児科医会市民公開講座

方法：リモート講演を会場で視聴

演題：「多世代交流拠点で子どもを育むまちづくり」

内容：2022年4月開設予定のおもちゃ博物館を含む香川県での様々な活動の紹介

演者：中橋恵美子氏（NPO法人わははネット理事長、讃岐おもちゃ美術館館長）

対象者：市民ならびに関係者

開催日：2022年6月12日

開催場所：香川県県民ホール（レクザムホール、香川県高松市）

委託先：香川県小児科医会

3. 子どもとメディア委員会

(1) 調査研究事業

1) 地域総合小児医療検討委員会への参画

計画立案時に地域総合小児医療検討委員会への参加を打診されていたが、委員会への参加要請はなく、代わりに同委員会主催の第1回地域総合小児医療ブラッシュアップセミナーに講師として招聘される形での参画となった。前期(2022/11/3)60分演題「子どもとメディア」講師＝内海裕美。

(2) 学術集会及び研修会事業 なし

(3) 普及啓発及び支援事業

1) 「子どもとメディア」問題に関する啓発活動

①子どもとメディア委員会の開催

日程	開催方法	会場
2022年4月24日(日) 10:30~14:00	現地開催	エイジーエス西新宿ビル 204
2022年9月4日(日) 10:30~15:00	現地開催	エイジーエス西新宿ビル 204
2023年2月19日(日) 10:30~15:00	現地開催	イオンコンパス東京八重洲

②会員向け啓発用資料の(スライド素材集)のリニューアル
会員専用ページ配信(ダウンロード可能)を目指していたが、委員会が思うように開催できない事もあり、次年度に継続する事とし、今年度の配信を見送った。

③リーフレット「スマホに子守りをさせないで」の増刷

納品日	増刷数
2022/06/02	10,000部
2023/12/13	10,000部
2023/12/16	10,000部

④子どもとメディア問題啓発ポスター3種の増刷

納品日	スマホに子守りをさせないで	遊びは子どもの主食です	スマホの時間わたしは何を失うか
2022/06/07	0部	1,000部	0部

⑤子どもとメディアの問題に関する懇話会の開催

日程	開催方法	会場
2022年7月23日(土) 15:00~17:00	現地開催	エイジーエス西新宿ビル 204

⑥既存リーフレット、ポスターの啓発、配布

ア)啓発活動

HPでの啓発。各種イベント会場における掲示、申込書の配布を行う。

イ)配布

【リーフレット】※新入会会員や日本小児科医会事業関連で使用する以外は原則有料で頒布。

注文による発送件数；36件。

・会員	6,500部
・非会員	29,000部
・その他※1	144部
計	35,644部
残部	4,977部

※1；資料提供、新入会配布、破損など。

【ポスター】※無料配布。注文による発送件数；16件

	スマホに子守りをさせないで	遊びは子どもの主食です	スマホの時間わたしは何を失うか
・会員	3部	8部	13部
・非会員	81部	70部	97部
・その他※1	189部	208部	184部
計	273部	286部	294部
残部	421部	866部	366部

ウ)その他対応

	件数
引用／紹介掲載承認※3	6件※2

※2；岐阜県羽島市民生委員児童委員協議会、特定非営利活動法人子どもとメディア、出版社ザメディアジョン（広島県広島市西区横川町）、福島県立医科大学ふくしま子ども女性医療支援センター（小児科）；福島県福島市光が丘、南魚沼市学習指導センター指導主事（新潟県南魚沼市六日町）、埼玉県健康長寿課母子保健担当。

4. 子どもの心対策委員会

(1) 調査研究事業

1)地域総合小児医療検討委員会への参画

計画立案時に地域総合小児医療検討委員会への参加を打診されていたが、委員会への参加要請はなく、代わりに同委員会主催の第1回地域総合小児医療ブラッシュアップセミナーに講師として招聘される形での参画となった。後期（2023/1/29）60分演題「子ども虐待への対応～開業医としてできること～」講師＝内海裕美。

(2) 学術集会及び研修会事業

1)「子どもの心」研修会の開催

①子どもの心対策委員会の開催

日程	開催方法	会場
2022年6月12日（日）8：00～10：00	現地開催	高松・レクザムホール

②相談医認定審査会の開催

日程	開催方法	会場
2022年8月21日（日）12：30～15：00	hybrid開催	エイジーエス西新宿ビル204

③第24回「子どもの心」研修会の開催

ア)受講者数

	日程	開催方法（会場）	受講者数
前期	5月7日、7日	hybrid開催（配信拠点；砂防会館）	552名（会員547名、非会員5名）
後期	7月17日、18日	hybrid開催（配信拠点；砂防会館）	636名（会員627名、非会員9名）

イ)参加役員

i)現地参加

	前期	後期
開会挨拶	会長※1	会長
役員	業務執行理事、理事2名※2	業務執行理事、理事1名※3

委員	運営委員 2 名※2	運営委員 4 名※3
----	------------	------------

※1；1 日目のみ現地参加（2 日目は Web 参加）。※2；宿泊者 3 名あり。※3；宿泊者 4 名あり。

ii)Web 参加

	前期	後期
役員		理事 1 名
委員	委員 7 名	委員 4 名

㊦未入会者への受講料差額請求

会員/非会員で受講料に差額を設けているが、入会予定として会員価格で受講後に期日までに入会頂けなかった先生には、後日受講料の差額分を請求した。

請求人数	請求後入会	差額入金者	未収金者
8 名※4	5 名	2 名	1 名

※4；期日時点で差額請求の対象は 9 名であったが、内 1 名は 9 月理事会に間に合うよう入金する旨事前連絡があった為、差額請求は行わなかった（未請求者 1 名は本人通知通り 9 月理事会にて入会済み）。

④相談医登録

本年度審査会により 2022/10/1 時点で相談医総数は 1382 名となる（2020/10/1 時点の相談医数は 1360 名）。

㊦新規登録

研修記録の条件を満たしている方	申請者	審査結果
189 名※5	93 名※6	93 名の新規登録を承認※6

※5；本年研修会終了時点の人数。非申請者 97 名中 48 名の研修記録は本年の審査会終了をもって申請に対し無効となる。

※6；内 1 名は審査会後に申請受理。特例で追加承認を行った。

㊦更新登録

更新対象者	申請者数	審査結果;187 名の登録更新を承認		
		正規更新承認	暫定更新承認	2023 年更新可能者
287 名	187 名	186 名	1 名※7	32 名※8

※7;2023 年度審査会時まで不足する必須研修会の受講が確認出来ない場合は、2023 年 9 月 30 日をもって欠番(名簿から削除)とする。

※8;更新要件一部免除者又は必須研修会 20 点を取得している未更新者。2022 年 9 月末で欠番とするが、更新申請期間の 1 年間延長を認め、次年度(2023 年 4 月～同年 8 月 5 日)までに申請があった場合は次回認定審査会にて登録更新とする。

㊦相談医研修単位承認申請への対応

申請件数；58 件、承認；58 件※9、非承認；0 件

※9；特定非営利活動法人チャイルドファーストジャパン、一般社団法人大阪小児科医会、一般社団法人日本外来小児科学会、日本小児心身医学会東北地方会、日本小児科医会地域総合小児医療検討委員会、香川県子ども心の診療ネットワーク事業事務局、一般社団法人日本小児神経学会、宮城県小児科医会/仙台市医師会/武田薬品工業株式会社、奈良県小児科医会、石川県健康福祉部少子化対策監室、日本小児心身医学会中国四国地方会、日本小児科医会/愛知県小児科医会、一般社団法人大阪総合医学・教育研究会（こども心身医療研究所）、日本保育保健協議会等。

2)思春期の臨床講習会の開催

㊦受講者数

日程	開催方法（会場）	受講者数
2022 年 11 月 20 日	hybrid 開催（配信拠点；フクラシア品川クリスタル・港南）	197 名（会員 188 名、非会員 9 名）

㊦参加役員

	現地参加	Web 参加
開会挨拶	会長	
役員	業務執行理事、理事※9	

委員	運営委員 3 名※9、その他委員 2 名	委員 5 名
----	----------------------	--------

※9；宿泊者 3 名。

カ)未入会者への受講料差額請求

会員/非会員で受講料に差額を設けているが、入会予定として会員価格で受講後に期日までに入会頂けなかった先生には、後日受講料の差額分を請求した。

請求人数	請求後入会	差額入金者	未収金者
1 名	0 名	1 名	0 名

3)「子どもの心」相談医カウンセリング実習

各地カウンセリング実習の開催

全国で全 12 回開催を計画していたが、企画段階で内 4 回（金沢、岡山、山口、九州地区）の中止を決定。実施に至った実習 8 回は以下の通り。

	日程	会場	世話人	①講師/②受講者/③役員/④ファシリテータ/⑤その他
札幌	8 月 21 日	社会福祉法人榆の会 地域生活支援センター「えすと」2 階会議室	須藤章	①3 名、②6 名（相談医 4 名、会員 2 名）、③運営委員 1 名（世話人）、④5 名、⑤要員派遣 5 名が参加。
仙台	1 月 29 日	仙台市医師会館 5 階研修室	今公弥	①2 名、②16 名（相談医 10 名、会員 4 名、非会員 2 名）、③運営委員 1 名（世話人）、④2 名。
東京①	10 月 16 日	エイジーエス西新宿ビル 204 号室	内海裕美	①1 名（世話人）、②11 名（相談医 10、会員 1）、③理事 1 名、④なし、⑤1 名風邪様症状のため受講をお断りした（受講料返金対応）。
東京②	12 月 18 日	TKP 東京駅カンファレンスセンター12F カンファレンス 12C	内海裕美	①1 名（世話人）、②17 名（相談医 15 名、会員 2 名）③理事 1 名、④なし。
名古屋	6 月 26 日	ウインクあいち 1801 会議室	蜂谷明子	①1 名、②19 名（全て相談医）、③運営委員 1 名（世話人）、④1 名。
岐阜	2 月 23 日	ワークプラザ岐阜 中会議室 403	葛西武司	①1 名、②13 名（全て相談医）、③運営委員 1 名（世話人）、④2 名、⑤1 名風邪様症状の為受講を辞退（受講料返金対応）。
神戸	10 月 16 日	神戸サンセンタープラザ西館 6 階 17 号室	野間大路	①1 名、②16 名（相談医 14 名、会員 1 名、非会員 1 名、③運営委員 1 名、④2 名
広島	2 月 19 日	広島 YMC A 国際文化センター 2 号館地階コンベンションホール II	河野政樹	①1 名、②15 名（全て相談医）、③運営会員（世話人兼ファシリテータ）、④5 名（③を含む）。

（3）普及啓発及び支援事業

1)子どもの心の問題・対応・解決のための活動

①冊子「子どもの心のケアのために」の啓発、配布

ア)啓発活動

主催研修会会場を中心に冊子を広報するチラシを配布した。

イ)配布

今期の配布依頼は無かった。日本語版残部 5748 部（英語版、中国語版はデータ作成のみ。必要時に印刷）。

5. 国際委員会

（1）調査研究事業 なし

（2）学術集会及び研修会事業

1) 事業名称：日台合同拡大国際委員会

実施できなかった。

2) 事業名称：外国人医療に関するシンポジウム

2022年6月12日、日本小児科医会総会フォーラムにおいて「ウィズコロナ時代におけるグローバルヘルスを考える」をテーマにシンポジウムを開催した。

*プログラム

コーディネータ 日本小児科医会国際委員会委員長 水野泰孝

① 外国人診療の過去、現在、未来：コロナパンデミックの影響

演者：北海道大学病院国際医療部 Peter Y. Shane

② 「before, with, and after covid-19 の外国人医療」

演者：くぼたこどもクリニック院長/日本小児科医会国際委員会委員 久保田恵巳

③ 在留外国人コミュニティへの医療支援 平時と緊急時の課題

演者：東京都看護協会 危機管理室 アドバイザー 堀 成美

④ 海外との交流における感染対策

演者：グローバルヘルスケアクリニック院長/日本小児科医会国際委員会委員長 水野 泰孝

(3) 普及啓発及び支援事業

1) ホームページを利用したの情報提供

①海外滞在者・渡航予定者（小児）のためのWEB医療相談

2022年4月1日～2023年3月31日実施。日本小児科医会ホームページ上に開設されているオンライン医療相談（国際委員会担当）に対して、海外に滞在する、あるいはこれから海外赴任される予定の方々から、小児の疾病およびワクチンに関するご質問が多数寄せられ、国際委員会委員がそれらの質問に答えた。

②海外医療情報提供

海外諸国のワクチン接種の現状および感染症に関する情報を国際委員会サイトへ掲載した。

③委員会開催

第1回 2022年6月12日 8:00～10:00 レクザムホール(高松)

第2回 2022年10月2日 11:00～15:00 エイジーエス西新宿ビル 204

*外部講師として大石公彦教授（東京慈恵医科大学小児科）をお招きし「日米での小児医療の違いから学ぶ」をテーマに勉強会を行った。

2) ミャンマー小児医療支援

新型コロナウイルス感染症拡大およびミャンマー国内政情不安のため実施できなかった。

3) ベトナム医療支援

新型コロナウイルス感染症拡大のため実施できなかった。

6. 小児救急医療委員会

(1)調査研究事業

1)小児救急医療委員会、3回開催（現地1回、Web2回）

令和4年度第1回小児救急医療委員会2022年6月12日、現地（総会フォーラム高松）

・出席：10名

・内容：前年度事業報告、今年度事業計画、委員会規則、第6回小児救急研修会2022.10.30、第12回地域小児救急連絡協議会2022.11.23、小児救急アンケート9～10月）

・新体制：委員長小山、副委員長高杉

令和4年度第2回小児救急医療委員会、2022年10月4日、Web

出席者：8名

・小児救急研修会、2022.10.30 午前、4 講演、なるにあと依頼、Web 参加登録、クレカ入金、録画配信+Live 質疑+後日動画配信。新興感染症、特に新型コロナウイルス関連。地域総合小児医療認定医単
位認定。

・小児救急アンケート：高杉・神菌担当、都道府県小児科医会対象。

・第12回地域小児救急全国協議会：2022年11月23日、Web

・#8000 情報収集分析事業：都道府県#8000 担当者会議実施。栃木県が NDS-8000-1 デジタル入力
で参加する。

令和4年度第3回小児救急医療委員会、2022年12月7日、Web

出席者：7名

・事件度事業計画作成（別紙）

2)小児救急アンケート調査、2022年9～10月

・Google Formで実施。

・回答48名45県、地域小児救急全国協議会で協議した。

・オンライン診療が次の課題

・その他の質疑事項は、第12回地域小児救急全国協議会記録に。

3)第12回地域小児救急全国協議会、2022年11月23日、Web

・参加者62名、都道府県小児科医会小児救急担当者、日本小児科医会小児救急医療委員

・#8000：outcome study、アンダートリアージ例収集

・家庭看護力醸成：効果的な周知法

・教育現場への啓発：医師会に働きかけ

・医療提供体制：協議会参加、数値目標

・オンライン診療：実例の収集、ルール作り

・新型コロナウイルス感染症：診療体制、二次感染、時間外検査、集団接種

・MLがなく、連絡が取りにくい。

4)#8000情報収集分析事業

・厚生労働省委託事業#8000 情報収集分析事業

・令和3年度報告書全体版を厚生労働省HPに掲載。

・令和4年度事業2022年9月～11月3か月間に45都道府県を対象に#8000データ249,637件を
収集。全体版報告書を作成して2023年3月に厚労省に提出した。月別相談件数、相談件数の時間変動、
緊急度判定を都道府県間比較。相談対象児の分析、相談者（保護者）の分析、相談対応の分析、経年
比較、新型コロナウイルス関連相談分析を行なった。

5)#8000情報センター

・新型コロナウイルスパンデミック対応等で関係団体と時間調整できず、会議は未施行。

・#8000 情報収集分析事業において、都道府県と全体会議及び個別会議を行って、都道府県#8000 事
業について相互理解を深めた。これは#8000 情報センターへの布石と考えている。

・事例検討（#8000 事例検証準備委員会）：事例検証会のあり方が次の課題。

6)地域総合小児医療検討委員会への参画

2023年1月29日の地域総合小児医療検討委員会主催のセミナーにて小児救急医療情報ツールにつ
いて講演した。

(2)学術集会及び研修会事業

1)第6回小児救急研修会、2022年10月30日、Web開催

- ・4演題、新型コロナウイルス感染症心筋炎・多系統炎症性症候群、熱性けいれん・ミダゾラム口腔液の使い方、小児の重症例、小児の原因不明の急性肝炎
- ・参加者269名（会員223名、非会員+学生46名）
- ・Web参加登録、クレカ入金、録画配信、Live質疑、後日動画配信。

(3)普及啓発及び支援事業

1)#8000・家庭看護力醸成サイト

- ・日本小児科医会HPに#8000・家庭看護力醸成サイトを設置。
- ・#8000情報収集分析事業報告、家庭看護力醸成マニュアル、小児救急医療情報ツールについて概説。
- ・ONLINEこどもの救急L、子どもの事故と対策、都道府県救急医療情報システム、都道府県こども救急ガイドブックにリンク。

2)#8000啓発事業、2022年9月19日

- ・#8000情報収集分析事業の一環で実施。
- ・Webで録画配信、Live質疑、後日YouTube掲載
- ・参加337名

3)家庭看護力醸成マニュアルの普及、未達

7. 公衆衛生委員会

(1) 調査研究事業

1) 予防接種広域化調査

内容：調査項目は、平成27年度から継続している県外予防接種補助制度（償還払いなど）、県内でワクチン不足（入手困難）時の供給調整システム、予防接種台帳の電子化、骨髄移植等で免疫が消失した児へのワクチン再接種補助制度の都道府県内の整備状況、県内広域化の進展状況、その他自由記載。

方法：令和4年2月15日に日本小児科医会会長メーリングリストで全国の都道府県小児科医会に調査を依頼し、調査のサイトのURLを記載し、ネット上で回答。

発表：高松における日本小児科医会総会フォーラム一般演題募集が無かったため、日本小児科医会会報No.64、2022、129-130に「令和3年度予防接種に関する全国調査報告」として誌上報告。

2) 公衆衛生委員会開催

①公衆衛生委員会開催 4回

日本小児科医会総会フォーラム開催時（高松） 1回（2022年6月12日）

ZoomによるWeb会議 3回（2022年4月10日、9月19日、2023年1月15日）

3) 地域総合小児医療検討委員会への参画

2023年1月29日開催の第1回日本小児科医会地域総合小児医療ブラッシュアップセミナー後期において、「ワクチン忌避の背景を知りその対策を考える」の演題名で公衆衛生委員会 峯・業務執行理事がセミナー講師

(2) 学術集会及び研修会事業

1) 公衆衛生委員会主催研修セミナー

セミナー名：「新型コロナのこれまでとこれから」

開催日時：2022年11月20日（日）午後1時～4時

フクラシア八重洲会議室より オンデマンド配信

11月21日～11月27日 見逃し配信

[プログラム]

開会の辞 伊藤隆一（日本小児科医会会長）

座長 及川馨（日本小児科医会理事）

講演1 「なぜ感染は広がるのかーコロナ時代の感染対策」

水野泰孝（日本小児科医会国際委員会委員長）

講演2 「コロナ、その時小児科外来の現場ではなにが起きていたのか」

時田章史（日本小児科医会公衆衛生委員会副委員長）

座長 片岡正（日本小児科医会公衆衛生委員会委員長）

講演3 「子どもの新型コロナワクチン接種率低迷の要因を探る～臨床医としての責任と矜持～」

藤岡雅司（日本小児科医会理事）

講演4 「子どもたちにコロナが何を及ぼしたか・及ぼしているか」

峯真人（日本小児科医会理事）

閉会の辞 田原卓浩 日本小児科医会副会長

を企画・開催

（3）普及啓発及び支援事業

1）他学会等への協力

① 予防接種推進専門協議会に委員を派遣：峯業務執行理事、片岡委員長を派遣

② 与党ワクチン勉強会に講師を派遣：実施なし

③ 厚生労働科学研究「HTLV-1」母子感染予防に関する研究に協力：時田副委員長が担当

厚生労働科学研究班による HTLV-1 母子感染予防対策マニュアル（第2版）

研究代表者 内丸薫（東京大学大学院新領域創成科学研究科）2022年11月にて報告

④ 風しんゼロプロジェクトに参加：峯業務執行理事対応

⑤ 予防接種法改正に向けての厚生労働省への要望・提案事項の検討

麻しん風しん定期予防接種の接種時期を逸した対象者への対応に関する要望書

2023年2月8日 厚生労働省 健康局長 佐原 康之宛 を作成・持参

⑥ 予防接種推専門協議会「HPV ワクチンのコミュニケーションツール作成ワークグループ」に協力：実施なし

⑦ 新型コロナウイルス感染症対策アドバイザーボードへの委員派遣：

「小児における新型コロナウイルス感染症の課題について 2022年6月1日」

を、阿南英明、今村顕史、太田圭洋、岡部信彦*、尾身 茂、釜菴 敏*、舘田一博、脇田隆宇、岡田賢司*、谷口清州*、多屋馨子*、峯 真人*、森内浩幸*（*小児科医）

を連名で作成・発表

2）その他活動紹介

① 新型コロナワクチン関連資材作成協力：峯業務執行理事作成協力

動画「コミナティ筋注6ヵ月～4歳用 特に注意いただきたいポイント」

（ファイザー株式会社制作） 2022年10月28日 厚生労働省ホームページ掲載

② 記者懇談会・記者発表での発表

日時：2022年11月2日

日本小児科医会 × 日本小児科学会による共同提言の緊急記者懇談会

「小児におけるインフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時流行に備えて」

③ 日本小児科医会ホームページを通じての情報提供

- i) ムンプスワクチン副反応調査への協力のお願い：2022年6月17日
- ii) お子さんへの新型コロナワクチン接種を迷っている保護者の方へ：2022年6月22日
- iii) 新型コロナウイルス感染症罹患者の全数把握見直しに関する日本小児科医会からの提案
：2022年9月27日
- iv) 2022年冬のインフルエンザ、新型コロナの同時流行へのワクチン対策：2022年9月27日（改訂
10月3日）
- v) 小児におけるインフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時流行に備えて
～お子様の保護者の皆様へ～2022年11月2日
- vi) 小児におけるインフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時流行に備えて
～医療機関の皆様へ～ 2022年11月2日
- vii) 子どもたちにとってのこれからのマスク対策 2023年3月31日
- viii) 4種混合ワクチンが2か月から接種可能に!! 2023年3月31日

8. 社会保険委員会

(1) 調査研究事業

1) 小児科診療報酬体系の問題点と今後のあり方の研究

① 医療技術提案書の作成：令和4年12月7日に内保連に提案意向調査を提出

i) 小児科外来診療料

- ・ 初診、再診ともに30点の増点を要望
- ・ 時間外加算、休日加算、深夜加算、小児科特例加算の減算方式の見直し（初診時110点、再診時70点を減ずるとあるが、この規定を出来高乳幼児加算分である初診時75点、再診時38点を減じるに変更を要望）
- ・ 救急搬送診察料の包括外と搬送当日の出来高算定の要望

ii) 小児かかりつけ診療料

- ・ 初診、再診ともに30点の増点を要望
- ・ 救急搬送診察料の包括外と搬送当日の出来高算定の要望

iii) 要支援児童・慢性疾患等地域連携指導料

要支援児童（周産期異常、先天性疾患、ハイリスク妊婦からの出産、入退院支援加算の対象児童）または慢性疾患を有する児童の退院時に、地域でかかりつけ医となる診療所と事前に情報共有（ICT等を用いたケースカンファレンス等）を行うことに対する評価であり、紹介する側は入退院支援加算を算定し入院中に1回、紹介を受ける側は退院後に当該患者が診療所あるいは病院を受診した初診時に1回算定できる。対象は学会側の先天性代謝異常の酵素補充療法などと絡め、対象疾患の選定及び年齢についても提示する。

② 令和6年度診療報酬改定における小児医療に関する要望書の作成

今年度は、医会が前文を作成し、学会側と共同して提出する。

令和5年1月25日開催の第3回日本小児科学会社保委員会に前文を提出、学会が前文に入院・在宅医療を追加した2/21更新版を提示する。

③ 診療所小児科医業経営実態調査（令和5年7月1日～7月31日予定）

毎回回収率が低いので、今年度からの調査においては、回収率を上げるため、設問内容の工夫をする。

④令和4年度日本小児科医会社会保険全国委員会

令和5年2月26日(日) 12:50~16:00 ビジョンセンター浜松町 Hybrid 開催

講師：日本医師会常任理事 江澤 和彦先生

演題名：中医協の審議状況について

各都道府県小児科医会社保委員代表1名の参加

⑤委員会の開催

i) 令和4年6月12日(日) 8:00~10:00：令和4年第1回社会保険委員会(高松)

委員長：松田 正、副委員長：鈴木隆久・師 保之、書記：師 保之

医療技術提案書の作成：森 伸生、鈴木隆久

診療所小児科医業経営実態調査：師 保之

小児医療に関する要望書の作成：委員長

ii) 令和4年7月1日~7月31日：次回改定への各都道府県小児科医会会長へのアンケート調査

iii) 令和4年9月23日(日) 11:00~15:00：令和4年社会保険ワーキングWG委員会(エージェンシア西新宿ビル)：「各都道府県小児科医会会長のアンケート調査結果」の集約

iv) 令和4年10月16日(日) 11:00~15:00：令和4年第2回社会保険委員会(TKP東京駅カンファレンスセンター会議室)

委員交代：北海道ブロック 多米 淳→斎藤淳人、小児科学会 中林洋介→稲毛英介

v) 令和4年11月13日(日) 20:00~22:00 Zoomによる第1回臨時全体委員会

「医療技術提案書」の意向調査の策定と「小児医療に関する要望書」に関して

vi) 令和4年12月9日(金) 20:00~22:00 Zoomによる小児科医会・小児科学会社保委員会(虐待・社会的養護)合同会議(医会より5名、学会側より5名参加)

学会側は、虐待・社会的養護グループからの経緯説明があり、医会側の「要支援児童・慢性疾患等地域連携指導料」との共同提案に関する論点整理の議論が行われた。

vii) 令和4年1月28日(土) 20:00~22:00 Zoomによる第2回臨時全体委員会

要支援児童・慢性疾患等地域連携指導料に関して学会側担当者も出席

2) 地域総合小児医療検討委員会への参画

第1回地域総合小児医療ブラッシュアップセミナー(前期)

日時：2022年11月3日(木)

大山昇一(理事)が演題「保険診療から見た小児科医の未来」(60分)を講演。

(2) 学術集会及び研修会事業 なし

(3) 普及啓発及び支援事業 なし

9. 少子化対策子育て支援委員会

(1) 調査研究事業

1) 成育基本法を含む少子化対策子育て支援に関する調査研究

成育基本法の成立後の、少子化対策子育て支援策を推進するため自見はなこ議員等との勉強会をWebなどで行った。

2) 記者懇談会(1回) Web開催(Zoomミーティング)

・2022年11月2日(水)

日本小児科学会との共同記者会見

「生後6か月~4歳の子どもへの新型コロナウイルスワクチン接種とインフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時流行に関する記者会見」

(2) 学術集会及び研修会事業 なし

(3) 普及啓発及び支援事業

1) 健やか親子21事業(第2次)

・第22回 健やか親子21推進協議会総会 オンライン開催

2023年2月16日(木) 10:00~12:00

2) 関係諸団体との連携

①日本小児医療保健協議会(5回) Web開催(幹事:日本小児科学会)

第208回(7月20日)、第209回(9月21日)、第210回(11月16日)、

第211回(2023年1月18日)、第212回(3月15日)

各会の活動内容や各合同委員会活動報告、意見交換などを行った。また、「こども家庭庁」創設に向けて、成育医療等の提供に関する施策の総合的な推進についての情報共有や、製薬会社へ要望書提出など協議した。次年度は日本小児保健協会が幹事。

②日本小児医療保健協議会合同委員会

i) 健康診査委員会(2回・Web開催)

12月2日(金)、2023年3月22日(水)

「乳幼児健診を中心とする小児科医のための研修会」、「乳幼児健康診査身体診察マニュアル」について協議した。

ii) 栄養委員会

2023年2月12日(日)「第17回子どもの食育を考えるフォーラム~現代の食に関する知識の整理~」をWeb開催した。

iii) 発達障害への対応委員会(2回・Web開催)

12月19日(月)、2023年3月29日(水)

2023年2月5日(日)「第7回多職種のための発達障害の研修会ーライフステージを見すえた発達障害支援ー」をWeb開催した

iv) 小児・周産期災害医療対策委員会(2回・Web開催)

第14回・6月17日(金)、第15回・12月19日(月)

参加各団体からの報告、情報共有を行った。

v) 災害時小児周産期リエゾン連絡協議会

7月12日(火)

③関連団体会議

i) 日本医師会「母子保健検討委員会」

・第1回・11月9日(水)、第2回・2023年3月15日(水)

ii) 日本医師会「学校保健委員会」

・第1回・11月30日(水)、第2回・2023年1月25日(水)、第3回・3月10日(金)

iii) 厚生労働省「母子健康手帳、母子保健情報等に関する検討会」

2022年5月から2023年3月まで検討会が計8回開催され、構成員として参加した。

④厚生労働科学研究

i) 厚生労働科学研究費補助金「身体的・精神的・社会的(biopsychosocial)に乳幼児・学童・思春期の健やかな成長・発達をポピュレーションアプローチで切れ目なく支援するための研究班」の研究協力者として協力した

⑤成育基本法に基づく「子ども家庭庁」による Children First な社会の実現のため、日本小児科医会2023年カレンダーを作成し会員に配布した。

10. 広報委員会

- (1) 調査研究事業 なし
- (2) 学術集会及び研修会事業 なし
- (3) 普及啓発及び支援事業

1) 機関誌発行等事業

① 医会会報の発行(年2回)

- i) 会報第63号を発行(2022年4月30日) 5,600部作成
特集「第17回日本小児科医会生涯研修セミナーから」等を掲載した。
- ii) 会報第64号を発行(2022年10月31日) 5,600部作成
特集「第33回日本小児科医会総会フォーラム」
「今、君が子どもたちにできること —四国・うどん県からの発信—」等を掲載した。

② 医会ニュースの発行(年2回)

- i) ニュースNo74を発行(2022年8月31日) 5,600部作成
定時社員総会、新役員紹介、第33回総会フォーラム(高松)、2021年度事業報告、理事会・定時社員総会の議事、ブロックニュースなどを掲載した。
- ii) ニュースNo75を発行(2023年1月17日) 5,500部作成
執行部の年頭所感、委員会の最近の話題、シンポジウム・セミナー報告などを掲載した。

2) 日本小児科学会でのPR 活動

コロナ禍で小児科医会のブースを設営できなかつたので、医会報、医会ニュース、入会申込書、地域総合小児医療認定医制度(資料)などは展示、配布できなかつた。

3) その他

- ・担当副会長が、松下 享先生に変更、委員長は川崎康寛先生、副委員長は川上一恵先生が留任。
- ・現在、紙媒体と電子化の2本立てで会報、ニュースを発信しているが、そろそろ「一本化」にしたい。総務、ホームページ委員会と共同して推進したい。
- ・会員拡大という広義の役割も努めたい。

11. ホームページ委員会

- (1) 調査研究事業

1) 地域総合小児医療検討委員会への参画

計画立案時、地域総合小児医療検討委員会への参加を打診されていたが、同委員会からの参加要請は特になかったが、同委員会からHPへの掲載依頼があった際は、早急に対応を行った。

- (2) 学術集会及び研修会事業 なし

- (3) 普及啓発及び支援事業

1) インターネットによる情報提供

HP制作会社であるクラウドサーカス社との保守管理契約を更新し継続的な機能の維持・充実を図った。

① ホームページ委員会の開催：1回開催

日程	開催方法	会場
2022年6月12日(日)、8:00~10:00	現地開催	高松・レグザムホール

② 新規情報の発信

- ・原則毎週火曜日にホームページ内容（一般・会員）を更新し、日本小児科医会の開催事業、セミナー・研修会や各委員会活動、小児科関連情報などを幅広く広報した。
- ・日本小児科医会主催研修会については担当理事の報告及び参加レポート等を掲載した。
- ・トップページスライディングニュースにより情報を発信した。

「乳児健診を受けましょう」「予防接種を受けましょう」「インフルエンザと新型コロナ同時流行が心配です」「新型コロナワクチン接種推奨」等。

- ・ホームページをより知って頂く為、主な更新情報を纏め、全会員に約2か月に1度のペースでメッセージを配信した。

③一般サイトの既存情報整理・掲載内容の見直し

- ・会員増強を図るため、入会案内ページの見直しを行った。
スライディングニュースへの画像追加、案内内容の簡素化等。
- ・メイン/サブメニューの見直しを行った。
メイン「日本小児医療保健協議会」の追加、サブ「ブログ」の移動、各委員会紹介へのリンク増設等。
- ・各委員会の紹介ページの新たな入口として「最近の日本小児科医会」ページ内にリンクを設定した。
- ・掲載情報量の多いページのレイアウトを見直し、より活用しやすい様工夫を図った。
小児科関連情報「コロナ関連情報」、最近の日本小児科医会等。

④HP 事業の応報（一般サイト・会員専用サイト）

今期はコロナ感染症関連情報に始まり、緊急性、重要性の高い情報掲載が多く、HP 広報関連の情報掲載は見送った。また、各種イベントのオンライン化、中止も多くチラシ作成などについても実施しなかった。

1 2. 地域総合小児医療検討委員会

(1) 調査研究事業

1) 地域総合小児医療認定医制度の運用

地域総合小児医療検討委員会を7回開催した。地域の小児医療・保健・福祉・教育を網羅的、総合的視点から総括した地域総合小児医療（Community Pediatrics）の確立とその実践者である地域総合小児医療認定医を育成するためのプログラムを検討し、さらに必要な研修制度、指導医育成とそのあり方について討議し、地域総合小児医療研修会の開催を企画・準備を行った。

地域総合小児医療認定審査会を開催した。申請のあったもののうち、地域総合小児医療認定医として、新規21名、更新者18名、指導者取得者7名を承認し理事会に上程し認可された。その結果、地域総合小児医療認定医797名（うち指導者260名）となった。

2) 乳幼児健診WGへの参画

藤田位理事が乳幼児学校保健委員会との合同WGに参加し、第9回指導者研修会にて三平委員に、第1回地域総合小児医療ブラッシュアップセミナーにて稲光委員に講演いただいた。

(2) 学術集会及び研修会事業

1) 地域総合小児医療認定医研修会（ブラッシュアップセミナー）を前・後期の2回開催した。

○前期 開催日時：2022年11月3日（木・祝）

会場：Live 配信 参加者：事前申し込み283名、当日参加者187名

- | | | |
|---|---------------|------|
| ①「これからの地域総合小児医療：日本版 Community Pediatrics を目指して」 | 地域総合小児医療検討委員会 | 佐藤好範 |
| ②「保険診療から見た小児科医の未来」 | 社会保険委員会 | 大山昇一 |
| ③地域総合小児医療認定医制度についての説明 | 地域総合小児医療検討委員会 | 佐藤 勇 |
| ④「子どもとメディア」 | 子どもとメディア委員会 | 内海裕美 |
| ⑤「プライマリ・ケアでも必要とされるグローバルヘルスの基礎知識」 | 国際委員会 | 水野泰孝 |

○後期 開催日時：2023年1月29日（日）

会場：Live 配信 参加者：事前申し込み286名、当日参加者195名

- | | | |
|---|---------------|------|
| ①「かかりつけ医療機関で行う、生後2か月からの予防接種の機会を活用した子育て支援」 | 乳幼児学校保健委員会 | 稲光 毅 |
| ②「ワクチン忌避の背景を知り、その対策を考える」 | 公衆衛生委員会 | 峯 真人 |
| ③地域総合小児医療認定医制度についての説明 | 地域総合小児医療検討委員会 | 杉原雄三 |
| ④「子ども虐待への対応～開業医としてできること～」 | こどもの心対策委員会 | 内海裕美 |
| ⑤「小児救急医療情報ツールの活用（EMIS、#8000など）」 | 小児救急医療委員会 | 渡部誠一 |

2) 第9回地域総合小児医療認定医指導者研修会を開催した。

開催日時：令和4年11月27日（日）

会場：JA 共済ビルカンファレンスホール 参加者22名

テーマ：小児科医と多職種連携

- | | | |
|------------------------|----------------|------|
| ① [講演] 1 子ども虐待予防の養育者支援 | 公益社団法人母子保健推進会議 | 佐藤拓代 |
| ② グループワーク 1 | | |

- ③ [講演] 2 多職種連携と小児科医 なばりこどもクリニック 稲持英樹
- ④ グループワーク 2
- ⑤ 2 か月健診時に用いる母親アンケート

日本小児科医会乳幼児健診ワーキンググループ 三平元

終了後、参加者に受講証を交付した。

(3) 普及啓発及び支援事業

- 1) 日本小児医療保健協議会 地域総合小児医療連絡協議会を開催した
開催日時：2023年3月24日（金）19：00～20：00 WEB開催
出席者：日本小児科学会、日本小児保健協会、日本小児期外科系関連学会協議会、
日本外来小児科学会、日本小児科医会（計12名）
 - ① 日本小児科医会から下記を報告した
 - i) 地域総合小児医療認定医の動向
 - ii) 第1回地域総合小児医療研修会—ブラッシュアップセミナー—
 - iii) 第9回地域総合小児医療認定医制度指導者研修会
 - iv) 第2回地域総合小児医療研修会—ブラッシュアップセミナー—
 - ii) 地域小児医療の在り方について
- 2) 第33回日本小児科医会総会フォーラム（高松）において、委員会企画の小児災害医療をテーマにしたシンポジウムを開催した。
開催日時：2022年6月12日（日）9：00～11：00
委員会企画1 地域総合小児医療検討委員会
災害医療対策シンポジウム—小児科クリニックのそなえ—
講演1 災害時の小児周産期医療体制 演者 岬美穂（国立病院機構本部DMAT事務局）
講演2 災害における保健・医療・福祉の連携
演者 服部希世子（熊本県南広域本部球磨地域振興局保健福祉環境部）
講演3 子育て支援から生まれた東日本大震災への対応
演者 川村和久（かわむらこどもクリニック）

II. 法人事業

1. 内藤壽七郎記念事業

2022年度（第19回）は、羽鳥雅之先生（埼玉県）、船戸正久先生（大阪府）お二人に「内藤壽七郎記念賞」を贈呈。

2. 2022年度各種会議の開催

(1) 社員総会

定時社員総会 2022年 6月11日（土）レクザムホール（香川県県民ホール）

臨時社員総会 12月25日（日）エイジーエス西新宿ビル+Web使用

(2) 理事会（5回） 2022年 5月15日（日）

フクラシア東京ステーション+Web使用（第1回）

6月11日（土）レクザムホール（第2回）

6月11日（土）レクザムホール（臨時理事会）

- 9月11日(日) エイジーエス西新宿ビル+Web 使用(第3回)
- 12月11日(日) ビジョンセンター浜松町+Web 使用(第4回)
- 2023年 3月12日(日) ビジョンセンター東京八重洲南口(第5回)
- (3) 総務会(3回) 2022年 7月24日(日) エイジーエス西新宿ビル+Web 使用
- 11月 6日(日) エイジーエス西新宿ビル
- 2023年 2月 5日(日) 日本小児科医会事務局会議室
- (4) 2021年度業務会計監査 2022年4月24日(日) エイジーエス西新宿ビル
- (5) 公益認定等委員会立入検査 2023年2月15日(水) 事務局会議室・浜松町TSビル

3. 会員の入退会

会員数 5,164 名 (A会員 2,989 名、B会員 2,170 名、個人賛助会員 4 名、団体賛助会員 1 団体)
 入会者 136 名、退会者 239 名、復会者 2 名 (2023 年 3 月 31 日現在)

4. 情報開発整備の実施

(1) 入会促進及び会員サービスの充実化

1) ホームページの利用

ア) 一般サイト

- ・入会促進のため一般サイト上で事業の発信を行った。

イ) 会員サイト

HP 制作会社と保守管理契約を締結し、継続的な機能の維持・充実を図った。

- ・会費請求時など登録情報変更が行えるマイページの周知を行った。
- ・メッセージ機能を通じて会員に向けて情報発信を行った。
- ・業者に検索エンジン対策についてレクチャーを受け、記事掲載方法見直しを行った(見出し設定の活用、サイト内リンク量を増やす、ブログカテゴリー追加等)。
- ・動画コンテンツ新機能追加(PW 設定追加、動画説明欄へのフォント修飾・リンク設定機能の追加)。
- ・休眠状態のコンテンツ「履修コース一覧」のメニュー表示を削除。

2) 各種イベント会場における入会促進資料の設置・配布

今期はコロナ感染症の影響で各種イベントのオンライン化、中止があった為、例年に比べ設置の機会は少なかったが、会員増強を目的に当イベント会場等において事業内容やホームページの周知を図った。